

ゆうあい

あなたがいて、わたし、がある。

OCTOBER 2024

10

vol.575

特集

ギャラリー ゆうあい



制作中の様子

人物・植物・動物・食べ物など、淡い優しい色合いで、竹田さんの世界観を思いのままに描いていく。

新生園 | 竹田 悦子 (たけだ えつこ) さん



社会福祉法人侑愛会

10月号 令和6年10月1日発行

発行日: 隔数月1日 / 発行所: 大塚公亭 / 発行所: 社会福祉法人侑愛会 (北海道北斗市追分7丁目8番9号)

<https://www.yuai.jp/>



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園

www.yuai.jp



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp



これからの地域生活支援のあり方について考える

2014年に障害者権利条約を批准した日本に対して、2022年9月に国連による初の対日審査の実施と総合所見(対日審査勧告)が示されました。その中でも特に条約第19条に基づいて地域社会での暮らしに言及されています。それを受けて、令和6年度の障害福祉サービス等報酬改定においても、地域社会での暮らしの場の選択肢の拡充や一人ひとりに応じた日中サービスの利用の促進等が反映されました。

意思決定支援の尊重

障害の有無に問わず、だれもが住みたい地域で住みたい住居に暮らすことが保証されて然るべきということが考えのベースにあります。言わねばとも当然のように思えるこの権利が、日本ではまだまだ十分であると指摘されています。私たちゆうあいを利用される方々においても、どのようなプロセスで現在の暮らしに至っているかを振り返るとき、本人の周囲で代行決定されがちな経緯が多いのではないかと思います。これからは、そのプロセスが本人の意思決定がどのように反映されているのかを問われようとしています。利用される方によっては、コミュニケーションの特性ゆえに、伝えることが苦手な方もいらっしゃいます。私たち支援者は、意思決定を支援するためのスキルを磨くと同時に、さまざまな体験・経験を通じてしか得られない選択する機会の拡大を進めていく必要があります。

多様な暮らしの場について

暮らしの場を指すときに、「入所施設」or「グループホーム」or「家族と同居(在宅)」or「ひとり暮らし」という場所だけで考えるのではなく、
「本人にとって暮らしやすい場所を用意し、自身で選択できる仕組みを考える事が重要である」と思います。そのためには、一人ひとりの意思を把握するために色々な暮らしの場を体験する機会を積極的に設けていく必要があります。また、日々の暮らしの中で、「自分で選ぶ」「自分で決める

る」そのために必要なことを学び、経験するという手続があつて初めて自分らしい暮らしだといえるのではないのでしょうか。(ゆうあいの月号巻頭記事から抜粋)

それらの一つの丁寧な支援を通して、選択する機会の場が、地域の中さまざまな社会資源の中を意識され、接する地域住民がそのことに気づいている社会こそが、多様な暮らしの場になりうるのではと考えます。暮らしについての検討のゴールが住居種別だけに留まらず、それこそ本人本人の住のたのためでもない福祉に陥るのではと危惧します。

地域連携推進会議をどう活かすか

報酬改定では、運営基準において、各事業所に「地域連携推進会議」を設置して、地域の関係者を含む外部の目(又は第三者による評価)を定期的にに入れる取組を義務付ける。ただし、令和6年度までは経過措置として、事業者の努力義務義務付ける。(施設入所支援も同様)と定められました。目的としては、事業運営の透明性を高め、支援の質の担保、向上につなげたい考えから、新設された項目です。私たちの事業運営は、国が示した方針「報酬改定のもと、それを忠実に実行し、その目的を果たしていかなければなりません。しかしながら、ここにおいても形式だけの義務の履行に留まらないように、注意していく必要があるでしょう。令和6年度においては努力義務とされており、義務化を控える次年度までに全国さまざまな事業所が検討を始めているところでは、根ざすべき大切なポイントは、利用される方、そのご家族、事業所職員、関係する地域の皆さま一人ひとりが地域を構成する

る住民として、その目的を共有し、参画していくこととなります。

地域連携推進会議

- ① 利用及びその家族、地域住民の代表者、共同生活援助者、その他関係者、並びに市町村担当等により構成される地域連携推進会議を開催し、おおむね1年1回以上、運営状況を報告することも必要とする。助言を聴く機会を得なければならない。
- ② 会議の開催は、おおむね1年1回以上、会議の構成員、事業所を定する機会を得なければならない。
- ③ ①の報告、要請、助言等についての記録を作成し、これを公表する。
- ※ 外部の者による評価が当該事業の実施状況の公表と見なされ、準ずる措置として、都道府県知事が定めるものを講じている場合は、適用しない。
- ※ 日中サービス支援型における協議会の報告義務は、これまでと同様。
- ※ 右記は、令和6年度から努力義務化、令和7年度から義務化。

おわりに

ゆうあいの指針2024では、地域生活支援の取り組み課題として、『意思決定によって選択できる多様な居住支援の場の創設』、『高齢期を迎えた(迎える)方々の日中活動の場の創設』を掲げています。具体的には、日中サービス支援型グループホームの設立や自閉症の方々への支援が標準化されたグループホームの運営強化が挙げられています。また、現在の通所事業所の部統合や再編の議論を本格化させることが挙げられています。利用される方々にとっての暮らしの質の保証と、安定的・持続可能な事業運営の視点を丁寧に見極めながら課題について推し進めたいと考えています。取り組みの指針としては、ゆうあいを利用されるお一人ひとりの豊かな暮らしの実現こそが地域全体の支援力の向上、そして共生社会の実現があります。サポートする 所長 林 経夫

サポートはます



カラフルな桜

中村 昭治

Nakamura Shoji

フェルトを使って立体感を出しました。ピンクだけではなく色鮮やかな桜が咲いている景色を作品にしました。

函館青年寮通所部 にじ部門



色の花

加藤 綾子

Kato Ayako

一つとして同じ形のない色紙を毎日折っています。額にはおさまらずあふれ出るくらいに。

おしま屋



十二支

川道 千年

Kawamichi Chitoshi

時間がかかったけど一つ一つ丁寧に縫いました。

明生画



海の中はキラキラ

平野 恵梨

Hirano Eri

マスキングテープを使って、魚のうろこや海藻をちぎり絵で作りしました。

新生画



悦子さんと愉快的仲間たち

竹田 悦子

Takeda Etsuko

大好きな友達、かわいいもの、楽しいことを描くのが得意な悦子さん。彼女の思いがあふれだす作品です。

新生画



カラフルなボタン

山本 真二

Yamamoto Shinji

粘土を丸めて判を押ししその後目打ちを使用し中央に2ヶ所穴を開けたら、はいカラフルボタンの完成です。

ワークショップ まるやま荘



海の生き物

古澤 美穂子

Furusawa Mihoko

余った布切れを再利用し、カラフルな海の生き物をイメージして作成しました。

クッキーハウス



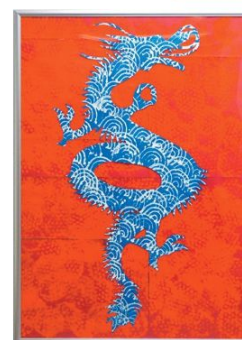
富士山

山本 えり子

Yamamoto Eriko

葉っぱの色を3種類の緑で貼り付けました。色画用紙や折り紙などいろいろな物を使って制作した。全体的にうまくできました。

函館青年寮通所部



青い竜

山村 洋一

Yamamura Yoichi

得意なスタンプをたくさん押して、竜を制作しました。びっしり押すことで味わい深くなっています。

クッキーハウス



大好きなフランスベッド

森山 要

Moriyama Kaname

大好きなフランスベッドに家族が寝ている姿を描き、色彩豊かに貼り絵にしました。

星が丘寮



HANABI

佐藤 記

Sato Akira

ちぎり絵は、細かい部分まで丁寧に貼っている様子が印象的です。夜空を彩る花火のような作品に仕上がりました。

ワークショップ まるやま荘



つる

太田 喜代美

Oota Kiyomi

毎日たくさん折っている鶴で作品を作って飾りたいと思い、作品を作りました。鶴を紙に貼り、虹やお花を作ってみました！！

ワークショップはこだて



100万ドルの夜景

曾我 圭緒

Soga Tamao

阿原 祥子

Ahara Sachiko

樋口 史織

Higuchi Shiori

北野 光芳

Kitano Mitsuyoshi

ハンドメイドサークルのメンバー4名それぞれが作成した作品をつなぎ合わせて完成した函館の夜景です。



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp